

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490800093		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり菰		
所在地	竹田市菰町瓜作4575番地1		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれて、自立した生活への支援をします。その人の想いを大切にして、アットホームな施設です。土地の新鮮な野菜を旬の味として食べられる施設です。地域の人にも、家族にも、アットホームな施設です。低料金です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員間のチームワークが良く、情報の共有がうまく図られている。
 ・職員一人ひとりが、利用者の希望に添えるように個別ケアに取り組んでいる。
 ・理念の一つでもある「地域との交流」を図る為に、事業所主催の敬老会などの行事に幼稚園児や地域の住民に参加してもらうなどの工夫をしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作成しています。実践につなげる努力をしています。	来訪者、職員にも目に付きやすいように玄関に理念を掲示している。月1回の職員会議で話し合い、実践につながるよう意識付けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の道路修理(2回)に手伝いをしました。施設の敬老会に地域の老人をお招きしました。日常のかどうか自信がありません。	ご近所の方が情報を知らせてくれ、地域の清掃の手伝いをしたり、祭りなどの地域行事にも参加している。幼稚園や小学生の訪問もあり交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会等で地域にどう関わりを持つたらいかが模索中です。竹田市社共荻支所にも相談にいきました。結論は出ていません。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価が初めての事なのでご指摘、ご指導があれば幸いです。	事業所内の状況報告や困り事を相談し、意見やアドバイスをもらっている。それらを会議録に残して検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所・介護保険係・地域包括支援センターとも関係は良好です。何かあれば指導して頂いています。	困難事例の相談や事業所の実情報告を行い、アドバイスを受けるなど、普段から気軽に相談できる良好な関係づくりが出来ている。また、社会福祉協議会にも相談するなど良い関係づくりが出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが、外出願望と帰宅願望のある人が2名います。朝夕の時間帯に扉に施錠をしています。事故防止のための安全策として行っていますが違反行為でしょうか。	日中は玄関の戸も開け放たれ、自由に出入りが出来るようにしている。夜間及び早朝の、職員が一人体制の時は、安全面から玄関に鍵を掛けるが、職員会議で皆で十分話し合い、拘束をしないケアへの意識の向上に努めている	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を持ち、その人の人権が損なわれないように努めています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度担当の社会福祉士と研修会を持ち学習しています。活用できるように努力します。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分説明し、理解を得ていると思います。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。近々家族会を立ち上げなければいけないと思っています。要望があれば運営に反映することには反対する理由はありません。	家族の面会時に利用者の状況報告を行いながら意見交換が出来るように働きかけている。面会のない家族へは、電話で状況報告を行う際に聞くようにしている。今後は家族会を立ち上げ、意見の収集を図り、運営に反映したいと考えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催しています。どちらかというとな職員の要望や意見が出にくいものかもしれません。	普段から職員に聞くようにしているが、主に職員会議で意見交換を行っている。職員の意見で砂埃防止に芝生を植えるなど、庭や敷地内の整備についても、意見や提案を反映している	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件の整備には努めていると思います。他の事業所と比べて条件が劣るとは思いません。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会の確保、トレーニングの参加には前向きであると思います。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	竹田市でグループホームの集いを持ち交流会、研修会等の活動、取り組みをしています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の想いを大事にして安心して生活できるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんですが家族の想いに耳を傾けながらというより家族と一緒に支援する思いで対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期におきましては家族の想い・本人の状態を把握するのに手さぐり状態の時もあります。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のしたいこと、ありたいこと、出来る事を探しながら一緒に生活をするという処遇を心がけています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の橋渡し・調整をしながら一緒に処遇する気持ちで連携を密にしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人によっては馴染みの場所や馴染みの物を避ける人もいます。昔の事を思い出すことがいい人(大多数)には努めて情報を流して話を共有できるよう支援しています。	行きつけの美容院へ行ったり、地域のふるさと祭りなどに出かけたり、家族の協力を得て、外泊や外出を行い、なじみの人や場所との関係が継続出来るように支援している	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	想い・人生観・したい事・個人の生活史が異なるので孤立しないように調整しています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までにそのような事例はありませんが、もしあれば本人・家族の支えになりたいと思います。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ思い、願い、価値観が異なるので意向の把握には努めています。まだまだ万全ではないかもしれません。	月1回利用者との懇談会を行い、出た意見や要望はケアにつなげている。意思表示の困難な利用者は普段の暮らしの中から表情や行動などで、気付いたことを記録に残し、情報を共有し、ケアに活かすように検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のしたいこと、出来る事、生活史を知らなければ本人の要望に沿えないので把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しています。	本人、家族の意見や希望を取り入れ、作成している。1ヶ月に一度職員会議でケース会議を行い、モニタリングを行っている。3ヶ月に一度プランの見直しを行っている。また、利用者の状態変化がある時は随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し実践しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところサービスの多機能化に取り組む状況ではありません。		

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は必要とは思いますが現状ではグループホームとしての存在価値を高めアピールするのに精一杯です。今後の課題とします。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援しています。	本人、家族の希望するかかりつけ医にかかっている。定期受診や特別な医療については家族が対応を行うが、それ以外は事業所が受診支援を行っている。看護師が家族に受診前後の状況報告を行い、情報の共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいますので適切な受診や主治医・専門医との連携は密であります。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の社会福祉士・相談員とは退院時、退院後の指導助言等を相談に乗ってもらい連携は密で良好です。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	竹田医師会病院・救急病院・主治医・家族等と終末期の在り方について奉仕員を共有し支援に取り組んでいます。	看取りは行わないことを入居時に説明し、家族は納得をしている。重度化や終末期には必要に応じ、適切な医療や福祉施設などの説明や紹介をするようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行おうと思います。開所時に竹田広域消防署に指導をさせていただいて救急救命の訓練を行いました。(22・11・25)		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練は行おうと思っています。6月の訓練では近隣の住民(1名)に参加協力をお願いします。今後地域の協力体制を強化していきます。	防災訓練実施計画書を作成し消防署立会いで避難訓練を実施している。今後は地域に応じた災害などを想定し、多くの地域住民の協力を得られるように検討している	

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように対応しています。	利用者本人が誇りに思っている事や、大事にしている事を尊重した対応を心がけている。トイレの声かけなどは、言葉や場所に配慮している。気になる事はその都度、助言や指導を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1回入居者との懇談会(会議)を持ち、今の思いや希望、行きたい事、したい事、食べたい事などを聞くようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし、その人の意向を反映した暮らしを大切にしています。中には皆と一緒に生活のほうが便利がいいという人もいます。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が全員女性なので気を使うようにはしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材の準備(皮むき)・片付けをしています。	三食とも、職員が食事を作っている。皮剥きをしたり、へたを取ったり、片付けをしたりと、利用者の力を活かしながら、食事づくりをしている。出勤職員全員で利用者と一緒に食事を摂っている。利用者の希望は献立に反映している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣に応じた支援をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあと見守り、介助をしながら口腔ケアをしています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握して対応しています。	自立者が多く見守りが主であるが、排泄チェック表をもとに支援を行っている。なお、尿意を訴えられない利用者には不快感を与えないように、排泄パターンを把握し、早めに対応をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の特性を考えながら主治医と相談の上個々に対応しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそった対応をしています。週2回は入浴機会を確保しています。	週4回の入浴日を設けている。希望者は毎回入浴している。拒否をする利用者に対しては言葉かけや気の合う職員が対応するなどの工夫をし、全員週2回は入浴が出来るように支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してよく眠れるよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の介助と症状の変化の確認に努めています。看護師が常勤でいますので連携は密です。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様、役割・嗜好品・楽しみごと・気分転換の支援をしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し最低月1回の外出の支援を心がけています。	近隣への散歩や居室前のテラスでお茶を飲んだりし、四季や外気を肌で感じられるように支援している。また、美容院や祭り、温泉など個人の希望に沿い、外出支援を行っている。	

事業者名: グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ち使うことの大切さは理解できるが現状としては買い物ができる人は少ない。お釣りの計算が出来ない、お金の管理が出来ない、お金の価値が判らない、買い物をする場所がないの理由で買い物ができる利用者がいません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしています。家族に日常的に電話をする人が1名、時々ハガキを出す人が1名います。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、床暖房もあり、住環境は整っていると思います。	共用空間以外の数箇所に少人数用のソファやいす、テレビがあり、気のあった者同士で会話をしたり、一休みしたりと、居心地良く過ごせるよに配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋で一人になりたければいつでも一人になれます。思い思いに過ごせるように工夫してあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族が良ければ使い慣れたものを持ってきて居心地良く過ごせるように工夫しています。	家族の写真を飾ったり、馴染みのタンスや、趣味の花や観葉植物、愛用の化粧品など、一人ひとりの希望に合わせた居室作りを工夫し、居心地良く安心して過ごせる居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりをつけ、自分の部屋には介助が欲しいときはコールで呼べるようにして自分自身のペースで生活できるように工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490800093		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり菰 2ユニット		
所在地	竹田市荻町瓜作4575番地1		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれて、自立した生活への支援をします。その人の想いを大切にして、アットホームな施設です。土地の新鮮な野菜を旬の味として食べられる施設です。地域の人にも、家族にも、アットホームな施設です。低料金です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【1ユニット目に記載】

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作成しています。実践につなげる努力をしています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の道路修理(2回)に手伝いをしました。施設の敬老会に地域の老人をお招きしました。日常のかどうか自信がありません。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会等で地域にどう関わりを持ったらいいか模索中です。竹田市社共荻支所にも相談にいきました。結論は出ていません。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価が初めての事なのでご指摘、ご指導があれば幸いです。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所・介護保険係・地域包括支援センターとも関係は良好です。何かあれば指導して頂いています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが、外出願望と帰宅願望のある人が2名います。朝夕の時間帯に扉に施錠をしています。事故防止のための安全策として行っていますが違反行為でしょうか。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を持ち、その人の人権が損なわれないように努めています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	青年後見制度担当の社会福祉士と研修会を持ち学習しています。活用できるように努力します。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分説明し、理解を得ていると思います。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。近々家族会を立ち上げなければいけないと思っています。要望があれば運営に反映することには反対する理由はありません。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催しています。どちらかというとな職員の要望や意見が出にくいものかもしれません。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件の整備には努めていると思います。他の事業所と比べて条件が劣るとは思いません。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会の確保、トレーニングの参加には前向きであると思います。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	竹田市でグループホームの集いを持ち交流会、研修会等の活動、取り組みをしています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の想いを大事にして安心して生活できるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんですが家族の想いに耳を傾けながらというより家族と一緒に支援する思いで対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期におきましては家族の想い・本人の状態を把握するのに手さぐり状態の時もあります。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のしたいこと、ありたいこと、出来る事を探しながら一緒に生活をするという処遇を心がけています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の橋渡し・調整をしながら一緒に処遇する気持ちで連携を密にしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人によっては馴染みの場所や馴染みの物を避ける人もいます。昔の事を思い出すことがいい人(大多数)には努めて情報を流して話を共有できるよう支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	想い・人生観・したい事・個人の生活史が異なるので孤立しないように調整しています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までにそのような事例はありませんが、もしあれば本人・家族の支えになりたいと思います。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ思い、願い、価値観が異なるので意向の把握には努めています。まだまだ万全ではないかもしれません。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のしたいこと、出来る事、生活史を知らなければ本人の要望に沿えないので把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し実践しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところサービスの多機能化に取り組む状況ではありません。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は必要とは思いますが現状ではグループホームとしての存在価値を高めアピールするのに精一杯です。今後の課題とします。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいますので適切な受診や主治医・専門医との連携は密であります。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の社会福祉士・相談員とは退院時、退院後の指導助言等を相談に乗ってもらい連携は密で良好です。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	竹田医師会病院・救急病院・主治医・家族等と終末期の在り方について奉仕員を共有し支援に取り組んでいます。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行おうと思います。開所時に竹田広域消防署に指導をさせていただいて救急救命の訓練を行いました。(22・11・25)		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練は行おうと思っています。6月の訓練では近隣の住民(1名)に参加協力をお願いしています。今後地域の協力体制を強化していきます。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように対応しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1回入居者との懇談会(会議)を持ち、今の思いや希望、行きたい事、したい事、食べたい事などを聞くようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし、その人の意向を反映した暮らしを大切にしています。中には皆と一緒に生活のほうが便利がいいという人もいます。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が全員女性なので気を使うようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材の準備(皮むき)・片付けをしています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣に応じた支援をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあと見守り、介助をしながら口腔ケアをしています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握して対応しています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の特性を考えながら主治医と相談の上個々に対応しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそった対応をしています。週2回は入浴機会を確保しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してよく眠れるよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の介助と症状の変化の確認に努めています。看護師が常勤でいますので連携は密です。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様、役割・嗜好品・楽しみごと・気分転換の支援をしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し最低月1回の外出の支援を心がけています。		

事業者名: グループホームしらゆり萩 2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ち使うことの大切さは理解できるが現状としては買い物ができる人は少ない。お釣りの計算が出来ない、お金の管理が出来ない、お金の価値が判らない、買い物をする場所がないの理由で買い物ができる利用者がいません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしています。家族に日常的に電話をする人が1名、時々ハガキを出す人が1名います。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、床暖房もあり、住環境は整っていると思います。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋で一人になりたければいつでも一人になれます。思い思いに過ごせるように工夫してあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族が良ければ使い慣れたものを持ってきて居心地良く過ごせるように工夫しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりをつけ、自分の部屋には介助が欲しいときはコールで呼べるようにして自分自身のペースで生活できるように工夫しています。		